

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

梅や桜の開花情報などの早春の便りで春の訪れを間近に感じられ、コロナで外出を控えていた期間が長かったため今年こそ旅を

してみようと思ってる人も多いはずだ。大北エリアにも自然を求めのお客様で祭日には車両の通行量に賑わいを感じられる。観光関係者に入込などを聞くと施設により入込の濃淡に大きな違いを感じてしまう。だが多くの施設は、昨シーズンの約倍以上に、コロナ前の約70%にまで観光事情が戻ったとの声が聞こえてきた。

しかしパウダースノー(粉雪)を求めて山スキーを楽しむスキーヤーも多くなり、雪崩による遭難事故も発生している。江戸時代から白馬山麓の農民の

自然観光資源としての「岳」を考えたい

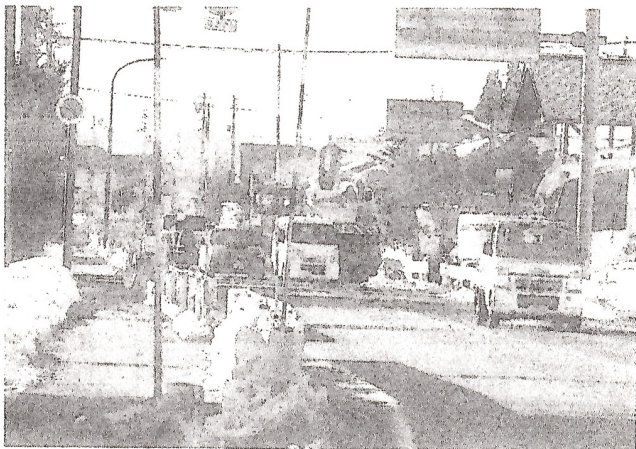
とりわけ、雪深く気象条件の厳しい北アルプス山麓にあつては、毎日の生活が直接、山の天気左右され「山」は生活の場所であり、糧を与えてくれる母なる大地として山岳信仰が強く、人々は「岳」

は魔物、神の居る聖なる座として、人がそこに近づき荒らすことは、もともと神を冒すくし、神のきげんを損ねることとなり、必ずそのシッペ返し、祟りがあると思われていた歴史があった。

長野オリンピック以前にも、カナダのスノーボーダーから白馬岳山頂からプロモーションビデオ撮影清走ができないかとの問い合わせがあった。当時の白馬村国際観光課は、白馬村作成の観光資料には登山道から撮影した映像しか採用しないことを徹底していた。限りなく登山道以外への入山を防止するためでもあった。カナダの関係者にも第一種

自然公園での立ち振る舞いに対する地元の意味を伝え、撮影断念していただいたことがある。現状の山スキーが個人の判断のみで行わ

せていいのかぜひ考えてほしいと強く思っている。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



国道除雪で堆雪した雪の排雪作業。土地を提供した皆さんに感謝だ。